

2014年4月1日開催 第587回番組審議会

■ 出席委員

櫻井美幸委員長、佐藤友美子副委員長、神谷徹委員、佐藤卓己委員、中野健二郎委員、東野博昭委員、若菜英晴委員

■ 毎日放送出席者

河内社長、松島専務、榎本専務、梅本常務、豊田取締役、木田取締役
赤阪コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長、柚山ラジオ局長、西村編成局長

◆ 審議事項

1. 委員交代

荒巻裕委員長が3月例会を最後に退任し、4月例会から中野健二郎氏(京阪神ビルディング株式会社代表取締役社長)が委員に就任した。委員総数は8名。
また、新しく委員長、副委員長に櫻井美幸委員、佐藤友美子委員をそれぞれ選出した。

2. 報告事項

- ①ラジオ・テレビの4月改編の概要と特徴について、ラジオ局長と編成局長がそれぞれ報告した。
- ②「放送番組の種別の公表」制度に則って、平成25年度下期6ヶ月分の番組種別ごとの放送時間を編成担当常務が報告した。合わせて同期間のCM総量及び4月以降の基本番組表についても報告した。

◆ 審議概要

① ジョ・テレビの4月改編について

ラジオの今回の改編は40.7%で、近年になく大きな改編となった。自社制作率も今回96.9%で、大変高い数字になっている。主な特徴は、22時台を全面改編して、パーソナリティの顔が見えるラジオ番組、テレビのようなラジオ番組をイメージした。

テレビの改編は、生放送で「今」をどう伝えるかということテーマに改編をした。朝5時半から、MBSのローカルニュースの「VOICE」までの約12時間半を生放送でつなぐ編成。改編率は、総放送時間の34.5%、ゴールデン帯31.6%、プライム帯は36.5%。総放送時間の改編率が30%を超えるのは、2009年4月以来の5年ぶり。

②「放送番組の種別」の報告について

報道番組は、10月から3月まで、合計1万3,216分で前期より1,054分減少。教育番組は7,492分で、前期より127分減少。教養番組は1万5,127分、これは前期より246分増加。娯楽番組は2万316分で、前期より1,015分増加。通販番組は3,437分で、69分増加している。

CM放送実績は、この半期は1万603分25秒で、総放送時間に対する割合は17.7%。前の期は16.9%。

【各委員の主な意見は次の通り】

<ラジオ・テレビの4月改編について>

* ラジオの番組表が大きくかわり、タイトルこそ違え22時台がそろって、わかりやすく、全体に聞きやすくなった。

* 出演する人は、ラジオ好きが多い。その人たちの発信の中にラジオをうまく乗せていくと、ラジオがいいというファンが増えるかもしれない。

* ラジオの受信機そのものがない。デジタル化以前はラジオの受信機でテレビの音声を聴けて、それなりに重宝していた。今必要なのは、テレビでラジオの音声が聴けるということじゃないか。

* パソコンにラジオがのってきたら、すごくハンドリングがよくなり、ながら視聴ができる。どういうシチュエーションでラジオを聴けばいいのか、もっとPRしたらいい。

* 意外にラジオを置いている家庭が減ってきていて、災害時の電気が通じないというケースをあまり体験されていない。このへんはキャンペーン的にやっていくことはできないのか。

<「放送番組の種別」について>

* 個別の番組で厳密に数字を何%と何%にすることはできないだろう。逆に数字があるから、数字が前提で調整が行われているんじゃないのか。

この数字は、目標として意識を高く持つという意味はあるが、本当に数量化できるものがあると考えるのは、そもそも放送をよくしていくことにつながるのかどうか懐疑的だ。

* 通販番組を見ていて、完全に宣伝のような気がする。内容からしたら全部宣伝の感じがするので、CMじゃないのかと思う。

以上